

令和3年10月14日

雲 仙 市

担当課	観光商工部 観光物産課
担当者	観光戦略推進班 宮原 祐二
電 話	0957-38-3111
F A X	0957-38-3205

**「東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム」における
雲仙市内現地活動の実施について
(本状含む3枚)**

東京大学では、自治体と連携して、学生が現地活動を行いながら地域の課題解決の道筋提案を行う「東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム(東大FS)」を実施しています。

本市では、下記のとおり、現地活動を実施しますので、お知らせいたします。

記

【期 間】 1班：令和3年10月16日(土)～17日(日) 学生3名
2班：令和3年10月23日(土)～24日(日) 学生3名

【テーマ】「雲仙大学(仮想大学)」における、都会の学生や企業が積極的に関わっていただける仕組み、方法やきっかけづくりについて提案

【内 容】・市内の観光・農業・飲食等の事業所との意見交換
・地域内外の交流拠点「雲仙BASE」の視察
※詳細は、別紙行程表(予定)をご参照ください。

【その他】・ご取材いただける場合には、事前に担当者まで、ご連絡いただけますと幸いです。個別事業所での取材の可否につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の観点から、各事業所への相談が必要となります。

・東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム(東大FS)につきましては、東京大学ホームページをご参照ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h002.html>

東京大学フィールドスタディ 雲仙市現地活動行程表 (予定)

1班

日 時	場 所	備 考
10/16 (土)		東大生3名
13:00~15:00	ナチュラルファーマーミング	オリーブ生産・加工品
15:30~17:30	竹田かたつむり農園	伝統野菜等農業者
10/17 (日)		
7:00~ 8:00	ノルディックウォーク	
8:45~10:00	仁田峠	
10:00~12:00	雲仙BASE (雲仙小中学校)	廃校活用の交流拠点 意見交換
13:30~14:30	ほっとふっと105ほか散策	
14:30~16:00	小浜観光案内所	
16:30~18:00	あい娘酒造	酒蔵

2班

日 時	場 所	備 考
10/23 (土)		東大生3名
13:00~15:00	伝統野菜を守り育む会	雲仙こぶ高菜生産・加工
15:30~17:30	NSP	イベント・PR
18:00~	宿泊施設	宿泊
10/24 (日)		
7:00~ 8:00	ノルディックウォーク	
8:45~10:00	仁田峠	
10:00~12:00	雲仙BASE (雲仙小中学校)	廃校活用の交流拠点 オープニングイベント視察
13:30~14:30	ほっとふっと105ほか散策	
14:30~16:00	刈水庵	ギャラリー、カフェ
16:30~18:00	伊勢屋、OBAMA St.	旅館、まちづくり団体

設立目的

- 【雲仙側】 オープンイノベーションにより、地域課題を解決を目指す。
- 【都市側】 雲仙の地域課題を事例に、アイデアの種を生み出したり、ソリューションに磨きをかけ、ビジネスの成長を目指す。
- 【共通】 これらを通して、関わる人材の育成や企業の価値向上を目指す。

なぜ雲仙で

- ▶ 雲仙市観光戦略において、地域の課題が洗い出され、その解決に向けたワーキングが活動し、各種プロジェクトが推進されている。
- ▶ 地域に、関わる熱い人々がいる。
- ▶ 長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォーム構築の機運の高まり。

雲仙側のニーズ

- 課題を解決したい…
- 問題意識はあるが、何が課題かわからない…
- どこに相談してよいかわからない…
- 課題解決のための新たな考え方やノウハウを学びたい…
- ビジネスベースに持っていきたい… 等々

雲仙側に期待される効果

- 普段出会えない人や考え方・ノウハウに出会える！
- 地域課題の解決が図れる。
- アイデアが、ビジネスになる。
- 人が育つ。雇用が生まれる。
- 産業が活性化し、地域の持続可能性が高まる。
- 関わる人が増え、観光地としての幅が広がる。

～魅力的な課題がここにはある～

雲仙大学

(バーチャル大学)

雲仙での地域課題解決に参加することにより、
雲仙側・都市側の両方の
関わる人や企業のレベルアップを目指す仮想大学

地方と都市の交流による
オープンイノベーションでの
Win-Winの地域課題解決型
ソリューション創出実践大学

～社会で新たな価値を切り開いていく
ための知見を身につける交流の場～

都市側のニーズ(企業、組織、学生)

- 地域のリアルな課題にふれたい…
(その中でも、本気の地域と関わりたい)
- そこで、地域と共に、ソリューションの種を、
ビジネスに昇華させたい…
- その過程で、地域課題のような複雑系の課題に
対処できる人材を育成したい…
- それらが、地域貢献にもなれば… 等々

都市側に期待される効果

- 普段出会えない地域の人や課題に出会える！
- ビジネスの種を見出ししたり、ソリューション
の磨き上げ、ビジネスモデルの構築につながる。
- 生み出されたソリューションを、他地域に横展
開できる！
- 地域課題のような複雑系の課題に対処できる人
や企業になる！
- 自分事に置き換えて、想像できるようになる！

スケジュール

令和2年度(3月頃)

* コロナにより延期

- ① 参加者に、雲仙側が課題(魅力を生かせていない)と考えていることを伝える
- ② 参加者とともに、各課題の現場と、それを何とかしようとしている熱い人たちに会いに行く
- ③ 今後、様々な人に、「参加したい」「関わりたい」と、思ってもらえるように、課題(問い)をブラッシュアップする
- ④ その課題を、教室・ゼミと見立て、雲仙観光地域づくり大学のカリキュラムとする

令和3年度

- ① 雲仙観光地域づくり大学の開校
- ② 課題解決に向けた取り組みを行い、関わる人がレベルアップしていく
- ③ それに魅せられて、関係する人が増えていく

令和4年度以降

- ① 地域課題の解決も図れ、好循環が起こっていく
- ② 島原半島内でも、関わる人(課題を持ち込む人)が増えていく
- ③ 長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォームの一翼を担う

- 地域の人が、課題を持って参加したくなる場に！
- それら課題を、地域内外の交流で、ブラッシュアップする場に！
- それら課題を解決するためのソリューションを生み出し、磨きをかけ、人が育つ場に！
- 地域の高校生などにも参加してもらえるような場に！
- 魅力的な課題設定(問いの立て方)自体も、学ぶコンテンツになる！